



性の多様性の理解を進めるために

**令和2（2020）年4月
大阪府教育庁**

目次

1. はじめに 1

多様な性のあり方って？

性って女性と男性だけじゃないの？

性的マイノリティとかLGBTとか、聞いたことはあるけれど・・・。

➡ 性について基本的なところから理解したい方はここからお読みください。

2. 安心・信頼の学校づくり 4

児童生徒等の思いや悩みを理解したいけど、どうしたらいいの？

相談しやすい学校にしていくには？

日頃からできることは何？

➡ 性的マイノリティの児童生徒等をはじめ、全ての児童生徒等が安心して過ごせる学校づくりについてはここをお読みください。

3. 児童生徒等の安心のために 8

性的マイノリティの児童生徒等はどうな悩みがあるの？

どんな配慮をしていけばいいの？

➡ 具体的な配慮を考えたいときはここをお読みください。

参 考 11

学校で教職員研修や具体的な配慮を進めていく際に参考になる資料を集めています。



1. はじめに

大阪府では、府民一人ひとりが性的指向及び性自認の多様性に関する理解を深めていくことにより、性的マイノリティの人々に対する誤解や偏見をなくし、誰もが自分らしく生きることができ、社会の実現をめざして、令和元（2019）年10月に「大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例（大阪府性の多様性理解増進条例）」を施行しました。

この条例では、第7条で「府は、性的指向及び性自認の多様性に関する府民の関心及び理解を深めるため、教育及び啓発を行うこと。」「府は、府が実施する事務事業において、性的指向及び性自認の多様性に配慮するよう努めるものとする。」と定められています。

これを受けて、学校でも性の多様性に関する理解を進めるための教育・啓発等を行うとともに、性的マイノリティの児童生徒等に適切な配慮をすることが求められています。

この資料は、教職員の皆さんに性的指向及び性自認の多様性に関する理解を深めていただくとともに、学校で性の多様性を理解する取組を進めたい、性的マイノリティの児童生徒等に寄り添い適切な配慮をしたいといった、教職員の皆さんの思いに答えるために作成しました。全ての児童生徒等が安心してありのままの自分で生活できる学校にしていきたいと思います。

【性のあり方は多様です】

性には、「身体の性」「性自認」「性的指向」「性別表現」など、様々な側面があり、全ての人に関わるものです。

身体の性	生まれてきた時に性染色体・生殖腺・性器などによって判断された性
性自認	自分の性別をどう認識しているか
性的指向	どの性に対して恋愛感情や性的な魅力を感じるか、またはどの性に対しても恋愛感情や性的な魅力を感じないか
性別表現	言葉遣いや髪型、服装など、自分をどのように表現するか

身体の性と性自認が異なる人もいます。例えば、「身体は男性だけど、性自認は女性」、「身体は女性だけど、性自認は男性」、「身体は男性だけど、性自認はどちらでもない」など、多くの場合があります。また、性的指向については、異性を好きになるとは限りません。同性を好きになったり、女性、男性両方を好きになったり、恋愛感情を持たない人もいます。

性のあり方を整理する概念として、ソジ または ソギ SOGI（Sexual Orientation（性的指向） & Gender Identity（性自認））があります。これは、多様な性のあり方を「性的指向」と「性自認」で整理するもので、異性愛者も含めた全ての人に当てはまる概念です。

性的指向とは

「異性を好きになる」、「同性を好きになる」、「両性を好きになる」、「誰にも恋愛感情を持たない」といった性的指向は、本人の選択によるものではないと考えられています。間違っ「嗜好」や「志向」と表記しないでください。また、病気ではないので、「思春期の一時的なこと」、「一時の気の迷い」、「すぐに治る」などといった言葉かけは絶対にやめましょう。児童生徒等の性的指向を詮索したり、決めつけたりすることも、相手を傷つけることにつながりかねません。クラスには、多様な性が背景にある児童生徒等がいることを常に意識しましょう。

【性的マイノリティとは】

性的マイノリティとは、様々な性のあり方の中で、少数（マイノリティ）の立場の人のことを言います。性的指向について少数であるレズビアン・ゲイ・バイセクシュアル、性自認について少数であるトランスジェンダーの頭文字をとってLGBTと呼ばれることもありますが、他にも多様な性のあり方があり、明確には分けきることはできず、LGBTQ、LGBTs、LGBT+と表記されることもあります。

Lesbian (レズビアン)	女性の同性愛者
Gay (ゲイ)	男性の同性愛者
Bisexual (バイセクシュアル)	両性愛者 (異性と同性が恋愛対象となる人)
Transgender (トランスジェンダー)	出生時に判断された性 (身体の性) とは異なる性を自認する人 F t M (Female To Male) 女性として生まれ、性自認が男性の人 (男性として生きる / 生きたい人) M t F (Male To Female) 男性として生まれ、性自認が女性の人 (女性として生きる / 生きたい人)
Questioning (クエスチョニング)	自分の性的指向や性自認をどちらかに決められない、分からない、または決めたくない人
Asexual (エイセクシュアル、アセクシュアル)	女性にも男性にも恋愛の感情を持たない人
X-gender (Xジェンダー)	女性もしくは男性として生まれ、どちらでもない / どちらでもある性別として生きる / 生きたい人
Pansexual (パンセクシュアル)	女性、男性の分類に適合しない人も含め、全ての性別を愛する人

性別は女性と男性の2つだけで、異性を性愛の対象とすることが当たり前だという意識が強く、性愛の対象を本人の意思で選択できると誤解をしている人もいます。性的マイノリティの当事者に対する理解が十分に進んでいるとは言えません。かつて同性愛は精神疾患とされていた時期もあり、現在もそのような誤解をしている人がいます。このような中、様々な場面で当事者が苦しんでいる実態があります。

【性的マイノリティの割合】

三重県で行われた高校生約1万人を対象にした調査(※1)によると、LGBTの生徒は約2.8%、Xジェンダーの生徒は約5.0%、クエスチョニングの生徒が約2.1%、合わせて約10%という結果が出ています。どの学校にも、当事者の児童生徒等がいるということを踏まえて取組を進める必要があります。また、その際に、「みんなの中にもいるかもしれないよ」などの言葉かけをすると、誰が当事者かといった憶測を呼ぶこともあり得ます。十分に配慮してください。

児童生徒等だけではなく、教職員の中にも当事者がいます。教職員どうしの言葉かけに配慮したり、性の多様性について教職員研修で取りあげることが、当事者の教職員にとって安心できる環境をつくることにつながります。

※1 多様な性と生活についてのアンケート調査(平成28・29年度 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」)

コラム①

知っていますか? DSDs : Differences of Sex Development ～「身体の性」のさまざまな発達～

DSDs(ディーエスディーズ)とは、外性器の形状や大きさ・内性器・染色体など、生まれつきの身体の状態が、これが一般的とされる男性・女性の身体とは一部異なる状態をいいます。

「男でも女でもない・半陰陽・男女両方の特徴を兼ね備えている」といったステレオタイプなラベリングや誤解は、当事者の心を傷つけることとなります。

DSDsは、性別や性自認・性的指向のことではなく、あくまで身体の状態であり、当事者の多くは自分のことを「身体の一部が異なるだけの女性・男性」と認識していて、性的マイノリティだとは思っていません。誤解をもとに性的マイノリティの一部に加えることには注意が必要です。

なお、DSDsを持つ人々にも、そうでない人同様、LGBT等性的マイノリティの人はいます。

参考:日本性分化疾患患者家族会連絡会 ネクスDSD ジャパン <https://www.nexdsd.com/>

2. 安心・信頼の学校づくり

性的マイノリティの児童生徒等が安心して学校生活を送れるようにするためには、性的マイノリティの児童生徒等の思いや悩み、願いを受け止め、学校体制や環境を作っていくことが大切です。その際、周りの児童生徒等の性的マイノリティについての正しい理解や当事者である児童生徒等を受け止めることができる集団づくりが必要です。その前提として、教職員の理解や認識が重要であることは言うまでもありません。

【児童生徒等が相談できる信頼関係・相談体制を】

なかなか人に言えないことは、「実は人に分かってほしいこと」でもあります。恋愛対象が同性であったり、自分の身体の性と心の性の不一致に起因する違和感を抱いていたり、悩んでいる児童生徒等がいます。

性的マイノリティの児童生徒等は、学校生活のあらゆる場面で、多数の児童生徒等と異なる自分の性のあり方を知られてしまうかもしれない不安を感じ、誰にも言わずに生活している場合があります。そんな児童生徒等にとって、学校が、自分のことを相談できる、そして、必要な配慮が受けられるところであればどんなに安心できるでしょうか。当事者の児童生徒等が安心して相談できる信頼関係の構築と、校内の環境整備を進めることが大切です。何より必要なことは、「相談しても大丈夫だよ」というメッセージを教職員から積極的に伝えることです。

児童生徒等から相談を受けたら、個人で対応せず、本人の了解を得ながら、共有の範囲を確認しつつ、必ず情報を共有して、組織的な対応をしましょう。スクールカウンセラーなどとの連携も必要です。性のあり方は、大変個人的でデリケートな問題です。時には命にかかわる問題となるので、何よりも、相談してきた児童生徒等の秘密がしっかりと守られるよう、情報管理を徹底してください。

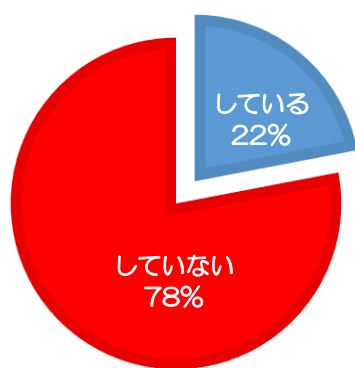
また、相談を受ける際には、本人が話しやすい環境を作ること、本人がどうしたいのかしっかり聞くことを心掛けてください。

【カミングアウトは本人が決めること】

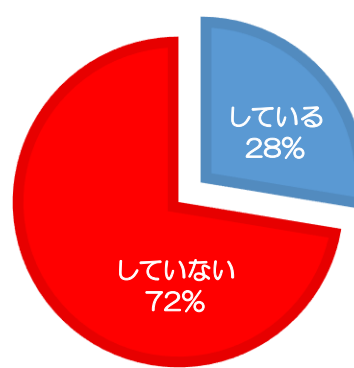
児童生徒等の中には、自分の性のあり方を周りの友だちに知って欲しい、せめて信頼できる大人には知っておいて欲しいと願う者もいます。このようなカミングアウト（※2）を望む児童生徒等については、周りの児童生徒等との関係性や、性の多様性への理解度、保護者が受け入れているかなど様々な要素を踏まえ、慎重に判断することが必要です。

カミングアウトは、自分のセクシュアリティを受け入れ、肯定する過程でもあり、自分らしく生きていくための手段の一つです。中には、保護者が受け入れていない、保護者が性的マイノリティに対して偏見等を持っているなどの理由で、保護者には知られたくないが、学校の先生にだけは分かってほしいという児童生徒等もいるので、丁寧に対応してください。そして、本人が、周りの児童生徒等にカミングアウトをする際には、あくまで本人の選択を尊重してください。強要するようなことは、決してあってはなりません。また、本人がカミングアウトするかどうかや、いつ、誰に、どのように伝えるか、カミングアウトをした際に起こりうるリスクとメリットについても校内で情報を共有し、組織的に対応しましょう。

当事者の児童生徒等が安心して学校生活を送るためには、カミングアウトをしている、していないにかかわらず、自分の性のあり方についての秘密が守られることが何より大切です。本人が望まない形で秘密を他人に知られることは、それが悪意のないものであったとしても、その児童生徒等の心を大きく傷つけることとなります。このようなアウティング（※3）を起こさない、起こさせないように、慎重に対応しましょう。



保護者へのカミングアウト



職場・学校でのカミングアウト

(LGBT 当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」：日高庸晴 2017)

※2 カミングアウト： 性的マイノリティであることを本人が告白すること。

※3 アウティング： 本人の了承なく、その人の性的指向や性自認について暴露すること。

アウティングされた男子大学生が転落死した事件

平成 27（2015）年 4 月、男子学生 A が同級生の男子学生 B に対し無料通話アプリで恋愛感情を告白したところ、B は「付き合うことはできないが、これからも良い友達でいたい」などと応答しました。しかしその 2 か月後、B は同級生である A も含む友人たちが見ているチャットグループに「お前がゲイであることを隠しておくのムリだ、ごめん」と投稿し、A が同性愛者であることを複数の第三者に暴露しました。

その後、A は心身に変調をきたすようになり、心療内科を受診し、大学の教授やハラスメント相談室に相談をしました。

さらに 2 か月後、夏休み明けの最初の授業で教室を抜け出して、A はクラス全体のチャットグループに「いままでよくしてくれてありがとう」などと投稿した上で、建物の 6 階のベランダから転落して、のちに死亡が確認されました。

【多様な性を受け止める前向きなメッセージを】

会話や、授業中や日常の言葉かけに配慮する、学校内に性的マイノリティに関する本を置いたり、啓発ポスターを貼る、新聞記事などメディアで話題になったことについて日頃から紹介するなど、学校が、当事者の児童生徒等に対して、「受け入れていますよ」、「いつでも相談してね」、「安心してね」というメッセージを発信することが大切です。

【教職員の主体的な学びを】

教職員が性的マイノリティについての基本的な知識や理解を深めるために、各学校で研修の機会を積極的に作っていくことや、性的マイノリティに関する資料（図書や視聴覚教材、ポスター等）に触れることが大切です。

また、性の多様性を認識し、尊重する取組を進める中で、教職員が、性的マイノリティを対象にした研究を行っている専門家や、当事者の体験を聞くことは、当事者の悩み、苦しみを理解し、本当に寄り添った支援をするためにとても大切です。教職員が性的マイノリティについて授業等を通じて発信していくことが、当事者の児童生徒等にとっては、学校が本当に理解しようとしてくれていると感じるメッセージにもなります。

コラム②

児童生徒等の“人生を変える”先生の言葉があります

LGBTの子ども達は、誰が信頼できる大人であるかしっかり見えています。この先生ならば自分のことをわかってくれるだろうと信じて、期待して、本当の自分の話をするでしょう。

学校での取り組みや先生のさりげない一言が、彼らの人生を変えることになります。
(日高庸晴：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 「子どもの“人生を変える”先生の言葉があります」より抜粋 <http://health-issue.jp/f/>)

性的マイノリティの児童生徒等が自分の周りにいないのではなく、言えずにいる児童生徒等がいるということを常に考えてください。まず、教職員が学び、そして、性的マイノリティの児童生徒等やその保護者が困っていることを知ることから始めていきましょう。

【日頃からの取組を大切に】

性的マイノリティの児童生徒の小・中・高の学齢期におけるいじめ被害率は58%、自傷行為経験率は首都圏の男子中高生に比べて2~7倍の高さであることが国内研究で示されており(LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」：日高庸晴 2017)、教育現場では、現状を十分認識した上で、常に当事者の児童生徒等のことを念頭に置いて取組を進めなければなりません。

当事者の児童生徒等がいるかもしれないという前提で、教職員が学校で性の多様性について取り組むことは、いじめ・不登校・自傷行為の発生を防ぐことになり、性的マイノリティの児童生徒等の人生と命を守ることに直結します。

緊急の対応が求められる事態になってから慌てるのではなく、普段からの性的マイノリティに関する授業の実施や、「何かあったら先生に相談したらいい」というメッセージを伝え続けること、これらの予防的取組が危機管理の観点からも有効です。

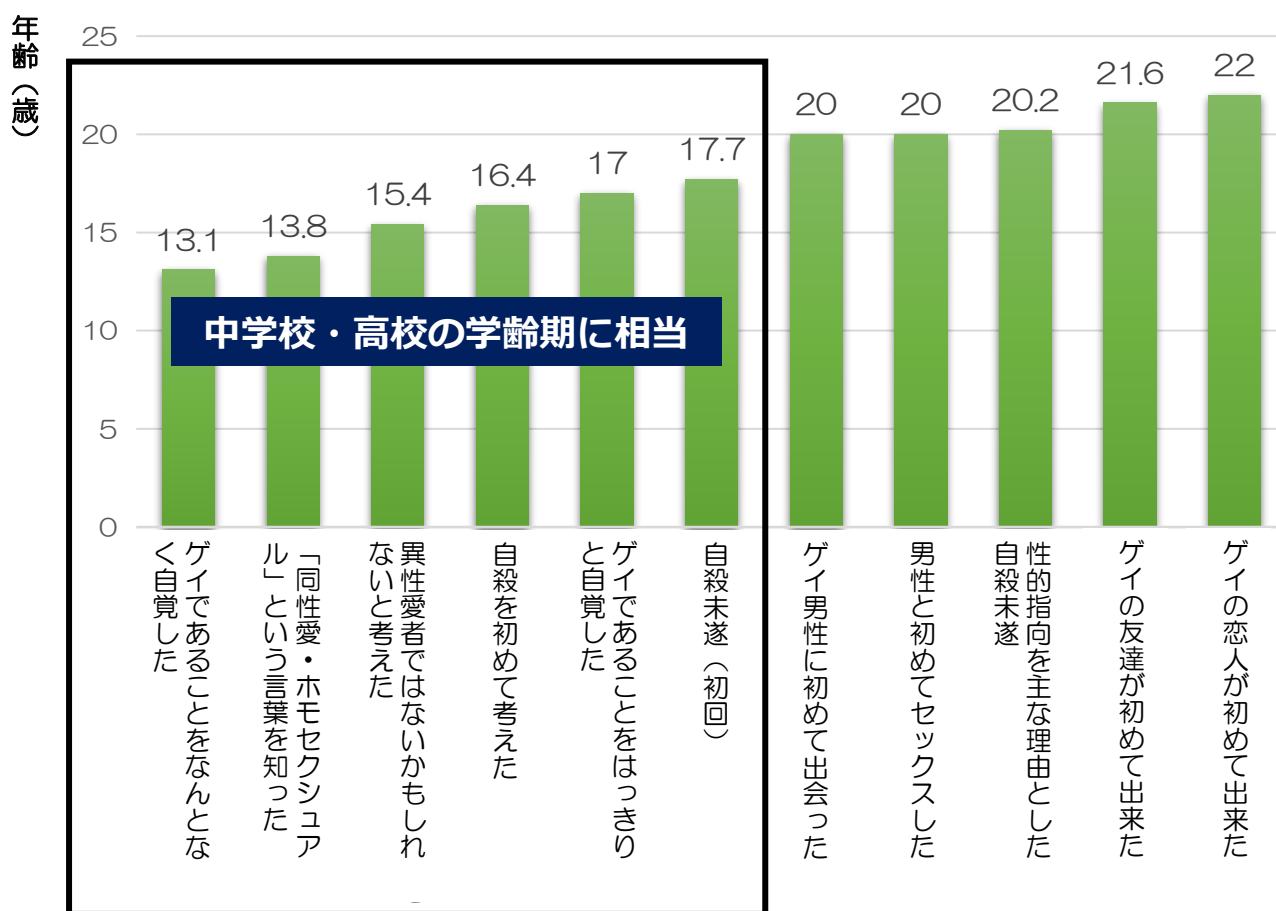
自分のクラスにも当事者の児童生徒等がいるかもしれない、その子どもたちが生きづらさに直面しているかもしれないという想像力を持ち、教職員や学校に何ができるのかを考え、実践していくことが今まさに急務となっています。

いじめ被害・不登校・自傷行為 経験率（10代）

経験率	レズビアン	ゲイ	バイセクシュアル (女性)	バイセクシュアル (男性)	トランスジェンダー (FtM)	トランスジェンダー (MtF)
いじめ被害	34.8%	49.1%	42.1%	45.8%	58.3%	85.7%
不登校	30.4%	28.8%	31.6%	24.6%	58.3%	57.1%
自傷行為	47.8%	16.9%	42.1%	15.3%	50.0%	42.9%

(LGBT 当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」：日高庸晴 2017)

ゲイ・バイセクシュアル男性の思春期におけるライフイベント平均年齢



(日高庸晴 1999 年調査)

3. 児童生徒等の安心のために

【性的マイノリティの児童生徒等の様々な悩み】

○日常の何気ない会話や言葉かけなど（隠れたカリキュラム）

多様な性を受け入れない言動が日常的になされるなど、教職員や児童生徒等が作り出す雰囲気や環境が、性的マイノリティの児童生徒等を苦しめています。

（例）異性愛前提の会話	性的マイノリティの人を笑いものにする会話
多様な性を認めない発言	女らしさ、男らしさが求められる
アンケートの男女別欄	女子に「さん」、男子に「くん」 など

隠れたカリキュラムとは

～文部科学省 「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」より～

児童生徒の人権感覚の育成には、体系的に整備された正規の教育課程と並び、いわゆる「隠れたカリキュラム」が重要であるとの指摘がある。「隠れたカリキュラム」とは、教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営む中で、児童生徒自らが学びとっていく全ての事柄を指すものであり、学校・学級の「隠れたカリキュラム」を構成するのは、それらの場の在り方であり、雰囲気といったものである。例えば、「いじめ」を許さない態度を身に付けるためには、「いじめはよくない」という知的理解だけでは不十分である。実際に、「いじめ」を許さない雰囲気が浸透する学校・学級で生活することを通じて、児童生徒ははじめて「いじめ」を許さない人権感覚を身に付けることができるのである。だからこそ、教職員一体となつての組織づくり、場の雰囲気づくりが重要である。

○授業や行事

学校生活の様々な場面で配慮がないことが、性的マイノリティの児童生徒等を苦しめています。

（例）制服/標準服	トイレ	更衣	体育の授業	宿泊行事	健康診断
男女別の授業	男女で色分けされた座席表	集会等での並び方	など		

【周りの児童生徒等の理解と安心して過ごせる集団づくり】

児童生徒等は、生活の場のこと、保護者との関係、自分のルーツなど、様々な背景を持って学校生活を送っています。全ての児童生徒等がありのままの自分で安心して学校生活を送るためには、児童生徒等どうしがお互いをありのままに受け入れ、尊重する関係性をつくるのが大切です。

このような集団づくりは、誰にとっても人権感覚を養う大切な機会になります。性のあり方についても同じく、多様な性のあり方を受け入れ、尊重する集団づくりを進めましょう。

【児童生徒等が安心できる配慮】

様々な学校生活の場面で、多くの性的マイノリティの児童生徒等は、自分のありようについて悩んでいます。性的マイノリティの児童生徒等が安心して学校生活を送るための必要な配慮を本人の希望を十分踏まえて行うことが大切です。

【性的マイノリティの児童生徒等の状況は多様です ～「合理的配慮」の観点で～】

例えば、児童生徒等がトランスジェンダーであるからといって、マニュアル的な、型にはまった対応をしては、適切な配慮をしているとは言えません。必ず本人や保護者の希望を丁寧に聞き取り、学校としてどのような配慮や支援ができるのかを検討しましょう。

具体的な配慮については、更衣の場所、トイレ、体育の授業はどうするかなど様々です。そのような中で、周りの児童生徒等から、なぜあの子だけという疑問が出て来ることも考えられます。そのような時にどう説明するか、また、周りの児童生徒等の理解をどう得るか、ということを考えておいてください。

《配慮の例》

配慮の例として、トランスジェンダーに対する配慮への言及が多くなりますが、性的マイノリティ当事者の比率としては、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアルが多数を占めます。そのような性的マイノリティの児童生徒等に対しては、トイレ、服装、更衣などで具体的な配慮が必要となることは多くありませんが、会話、発言などに十分な留意が必要です。

また、配慮は児童生徒等の希望に基づいて行われるものです。例えば、トランスジェンダーの児童生徒等に診断書の提出を求めたり、病院受診を配慮の条件とすることは必要ありません。

トイレは日常的に多くの児童生徒等が利用する場ですが、いじめやハラスメントにつながりやすく、丁寧な対応が求められます。同学年の児童生徒等と同じトイレを使いたくない当事者もいますので、少し離れたトイレを使用できるようにするなど、配慮が必要です。性的マイノリティの児童生徒等のみならず、トイレにまつわるこういった配慮は他の児童生徒等にもあてはまるものであり、柔軟な対応が求められます。

＜会話・発言＞

○性的マイノリティの人を笑いものにする会話はしない。

《たとえば…》

「女の子？ 男の子？ どっち？もしかして中性？」

（仲の良い同性どうしに向かって）「お前たち、ラブラブだな」

○異性愛前提の会話はしない。

《たとえば…》

「彼女できた？」「彼氏できた？」

（女子に対して）「女の子が好きって言ってたけど、それは恋愛感情じゃなくて一種の友情だと思うよ。そのうち彼氏ができるから大丈夫」

○多様な性を認めない発言はしない。

《たとえば…》

（男子に対して）「お前、男が好きなの?!」

「ゲイは大嫌いだ」

○当事者を傷つける言葉を使わない

《たとえば…》

差別的な言葉……レス、ホモ、オカマ など

使い方によっては傷つける言葉……オネエ

性別によるあり方の価値観を押し付ける言葉……女らしくしろ、男らしくしろ など

<トイレ>

○本人の希望を尊重しながら、施設面の制約や周囲の理解を踏まえて対応する。

- ・自認する性のトイレを使用できるようにする。
- ・教職員用のトイレを使用できるようにする。
- ・多目的トイレ（誰でもトイレ）を使用できるようにする。

<服装等>

○制服/標準服・体操着・水着・スリッパなど、身体の性により服装等が異なる場合は、児童生徒等の申出により、希望するものを着用できるようにする。

〔制服/標準服〕

- ・性自認に合わせた制服/標準服を着用できるようにする。
- ・性別によらない制服/標準服とする。

〔水着〕

- ・上半身を覆う水着を着用できるようにする。
- ・水泳の授業の補習を別日に受講できるようにする、もしくはレポートなどで代替できるようにする。

<更衣/健康診断>

○お互いに身体を見る・見られる場所であることについて配慮するとともに、本人の希望を尊重しながら、施設面の制約や周囲の理解を踏まえて対応する。

- ・保健室の利用、多目的トイレや空き教室等を更衣場所として使用できるようにする。
- ・時間をずらして使用/受診できるようにする。

<名前>

○児童生徒等の希望や、必要な場合は保護者の希望を聞いた上で、通称名（本人の希望する名前）が使用できるようにする。

<宿泊行事>

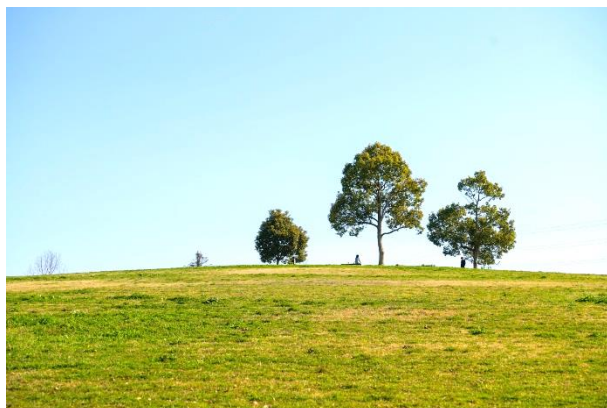
○性自認と同じ性別の児童生徒等と同じ宿泊室を使用する、個室を使用する、時間をずらして風呂を使用する、個室の風呂を使用するなど、様々な対応が考えられるので、当事者及び周囲の児童生徒等の希望や、必要な場合はそれぞれの保護者の希望を聞いた上で、個別の事象を考慮して、柔軟に対応する。その際、意図しないアウトティングが発生しないように十分注意する。

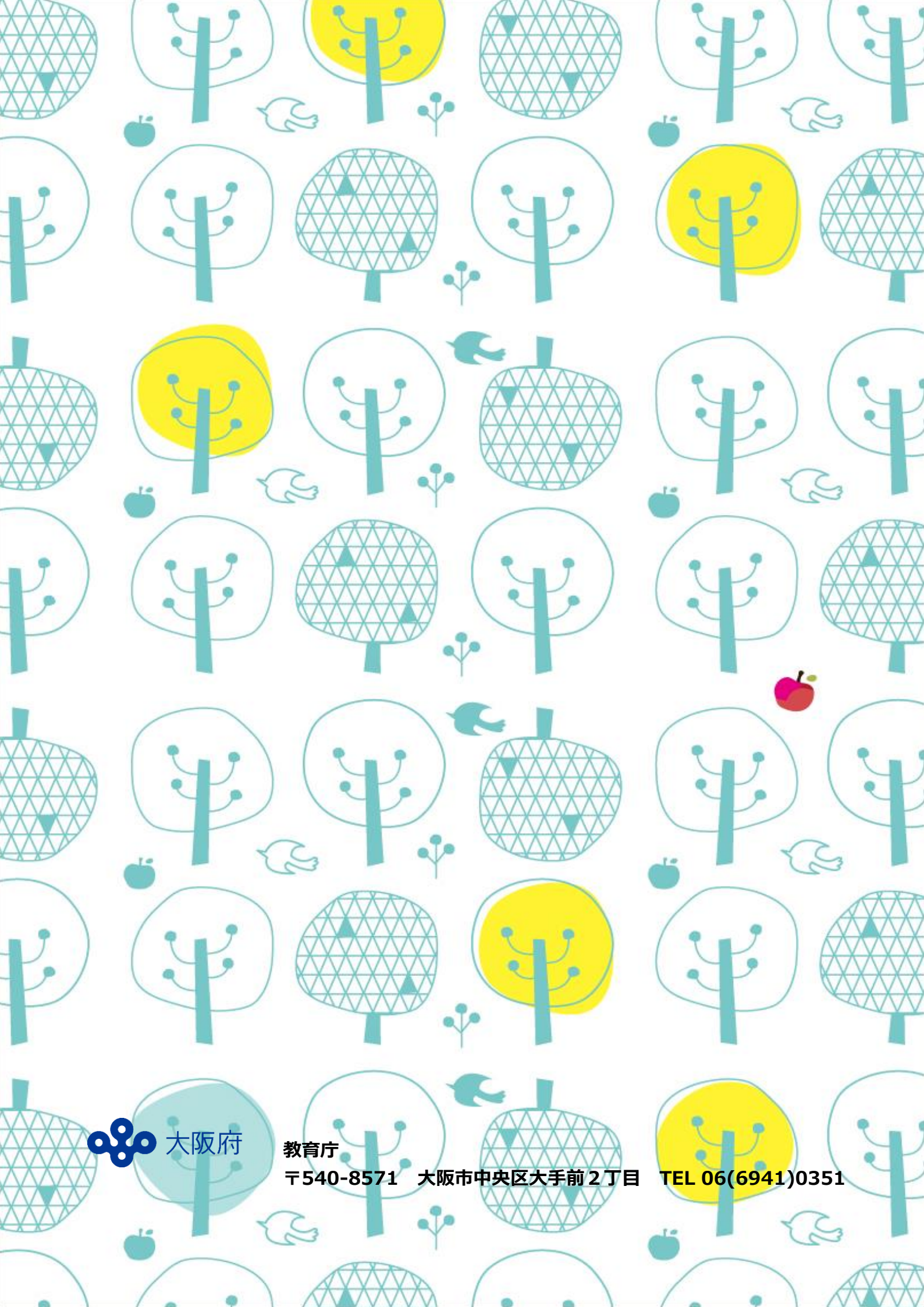
<部活動>

○児童生徒等の希望や、必要な場合は保護者の希望を聞いた上で、性自認に合わせた部活動に参加できるようにする。

参考

- 性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒等に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）（対応指針・支援事例・Q&A：同性愛・両性愛・トランスジェンダーなど、性的マイノリティの子どもにも対応するよう求めています。平成27年の下記資料を分かりやすく解説した資料です。）（文部科学省作成：平成28年）
- 性同一性障害に係る児童生徒等に対するきめ細かな対応の実施等について（対応指針・支援事例：同性愛・両性愛・トランスジェンダーなど、性的マイノリティの子どもにも対応するよう求めています。）（文部科学省作成：平成27年）
- 大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解に関する条例（府民一人ひとりが性的指向及び性自認の多様性に関する理解を深めていくことにより、性的マイノリティの人々に対する誤解や偏見をなくし、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現をめざします。）（大阪府府民文化部人権局：令和元年10月施行）
- 「子どもの“人生を変える”先生の言葉があります」（宝塚大学看護学部 日高庸晴 教授：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 <http://health-issue.jp/f/>）
- LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」（宝塚大学看護学部 日高庸晴 教授：http://www.health-issue.jp/reach_online2016_report.pdf）





大阪府

教育庁

〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目 TEL 06(6941)0351